

事務局ご担当者さま

ご面倒をおかけしますが、高教組分会長または書記長へお渡しください（全1枚）

新潟高教組 「高校入試中止」記者会見速報

2022年2月3日 全組合員配布

1.29 第149回定期県委員会での議論踏まえ、県教委に緊急要請書提出、報道記者会見に臨む！

1月31日、下記(1~4)要請後、県政記者室で吉田裕史委員長、浅川智之書記長が要請内容を説明した。同日夕、BSNがニュース報道、2.1付朝刊(日報、読売)にも記事掲載。新型肺炎禍における安全な高校入試を今後も強力に求める。

新潟県教育委員会教育長 稲荷善之 様 2022年1月31日

新潟県高等学校教職員組合執行委員長 吉田裕史

日頃より本県の教育の発展にご尽力されていることに敬意を表します。

さて、新型コロナウイルス感染症の第6波はこれまで経験したことがないほどの感染拡大の様相を呈し、社会経済活動に深刻な影響を与えています。感染者の急増は、感染対策を担う保健所を中心とした行政の機能不全を引き起こし、医療を受けられずに自宅療養を強いられる人々も増加の一途を辿っており、このまま感染者数が高止まりすれば生命の危機にさらされる人々もさらに増加しかねない状況です。

こうした中で、1月29日、県立学校各分会の代表者がオンラインを通じて結集し、第149回定期県委員会を開催しました。教職員の労働の現状や教育をめぐる情勢などを主要テーマに議論しましたが、生徒や教職員にも感染が急拡大する中で、濃厚接触者等にかかわる対応方針が変更され、本来保健所等が担うべき業務が学校現場に任せられることなどに対する疑問や不安に加え、特に高校入試を危惧する意見が強く上がりました。高校入試では、20年度、新型コロナウイルス対策が加わったことにより、受検生の健康チェックに関する業務が加わり、さらに、多くの別室を準備しなければならないなど、「試験監督が足りるのか」との声も寄せられました。実際に新潟南高校と佐渡高校では中等学校教員や教育センター指導主事が応援に入った事実もありました。

学校現場において、3学期は生徒の進級や卒業などにかかわる重要な業務が多く、加えて、人事異動を織り込みながらの引き継ぎなど新年度準備に忙殺される中で、入試業務に対応していかなければなりません。平時においても相当の業務圧力が教職員に課されますが、21年度においては、貴委員会も交渉で「瞬間的に教職員の業務負担は大きくなる」と認める、統合型校務支援システム運用にかかわる業務が加わり、さらに、新型コロナウイルス感染症に新たな対応を求められることとなりました。大学共通テストにおける刺傷事件の発生や不正行為が疑われる事案が発生し、高校入試においても安全と公正がより強く要請される情勢にもなっています。

1月25日に貴委員会は「令和4年度新潟県公立高等学校入学者選抜特色化選抜」で「面接検査等中止・出願書類のみで選抜」することを公表しました。大学入試においても最悪の場合に書類選考のみでの可否判断することを政府が各大学に要請する中で、現下の情勢を冷静に押さえた貴委員会の判断は英断だったと私たちは評価しています。加えて、私たちは「一般学力検査」についてもより踏み込んだ対応が必要ではないかと考えています。

本県の高校入試の現状を見ると、新潟市と長岡市を中心とする地域は志願者数が募集定員を上回りますが、それ以外の地域では志願者数が募集定員を下回るのが例年の傾向です。学校個別に見れば、相当数の学校で志願者数が募集定員を下回っていますが、入試によって定員内不合格をほとんど出していないと見えます。志願した生徒をほぼ全員受け入れて3年間育てる貴委員会や各学校の姿勢は賞賛に値するところです。

今後の新型コロナウイルス感染症の推移を誰も予測できない中で、受検生や教職員が安心して「一般学力検査」に臨むことができる環境整備は貴委員会の重大な責務です。しかし、現時点においても貴委員会が対策マニュアルを学校現場に示すことができないでいることは、極めて困難な状況であることを物語っているからに他なりません。

つきましては、纏々述べた事柄を勘案して、「一般学力検査」にかかわり、以下について要請しますので、早急な検討をよろしくお願ひします。

要請内容

- 1 志願者数が募集定員を下回った学校に対して、「一般学力検査」の実施を中止して、書類のみで選考すること。
- 2 前記「1」を前提にして、志願者数が募集定員を上回った学校に対して、試験会場を分散させるなど、より一層の密防止対策を講じること。
- 3 前記「1」を前提にして、志願者数が募集定員を上回った学校等に対して、外部から応援の人員を十分に配置すること。
- 4 受検生と教職員の安全確保のために必要なあらゆる対策を講じること。